

会報 安曇野教育

第54号

発行所 安曇野市教育会
 発行人 会報委員会
 編集 会報委員会

発行日 平成29年3月1日
 題字

この冬休みに中学校で担任した生徒たちの同級会に参加しました。十六年ぶりの再会であり、中学生だった時の姿と今三十歳を超えた大人の姿を重ね合わせ、お酒を飲むことができました。

自己紹介が始まりました。大学の講師をやっているAさん、専業主婦のBさん、バンドでベースを担当しCDを出したC君、居酒屋を夫婦でやっているDさん、東京で美容師をしているEさん・・・それぞれが精一杯今まで生きてきた様子が話され、感動を持って聞いていました。

この子たちのクラスは生徒同士のトラブルや不登校生徒も多く担任の私とすると「うまくいかなかった」というのが本音で、「もう少し自分に力があれば・・・」という思いで卒業させた学級でした。F君が話し始めました。私はF君の話聞きながら、三年生の保護者懇談会の様子が脳裏に浮かびました。どこの高校に行きたいのかとたずねると「・・・」とF君は何も答えてくれませんでした。私は無意識にF君に対してあきら

「子どもの可能性を信じて」



めを持っていたと思われる。しかし、現在のF君は製造関係の会社に勤め家庭も持って、今までやってきた仕事や家庭の様子を自信をもって話してくれました。その姿を見て大変成長したことを感じると共に、私の担任としての「心の狭さ」を感じました。

例えば「おとなしい」「自分の考えを持っていない」といったように思える生徒達を決めて、精一杯指導をせず可能性の芽をつんでいたので、と反省させられました。現在担任を持たれている先生方、大変ご苦労をされていると思います。しかし「生徒の可能性」を最後まで信じ、ぜひ私のような失敗をしないよう、生徒に寄り添った指導を卒業までしてほしいと思います。

F君の話の最後に、当時一番元気の良かったG君が「担任が大島先生でなかったら、中学校やめていた」と言っていたと聞いて少し気持ちが明るくなり、大糸線に乗って帰宅の途につきました。

安曇野市教育会会員の皆様、一年間教育会へのご協力ありがとうございました。来年度もよろしくお願いたします。

教育会この一年を振り返って

安曇野市教育会の諸事業も、会員の皆様のご協力を得て、滞りなく活動を進めることができました。

今年度の総集会は昨年度に引き続き堀金総合体育館サブアリーナにて開催し、同好会の発足会は総集会の前には実施しました。講演会は、「心を整えて元気で働く！」という演題で、スポーツドクター辻秀一先生からご講演をいただきました。また、会員の研究発表としては、教育課題委員会の

先生 先生
 と
 のお二人から、「教育課題『体力向上委員会』の取組」というテーマで、研究の成果を発表していただきました。話に引き込まれる講演会と誠実な取組の成果がうかがえる会員研究発表で、参加者にとって貴重な研修の機会となりました。

総集会への出席者は若干減少したものの、多くの会員にご参加いただきました。今後、我々の職能向上の大切な場として一はもちろん、公益法人として一般市民の皆様にも貢献し得る総集会にしていきたいと思えます。

本会の重要な活動である各種委員会・同好会・実技講習会も、参加された会員の皆様のご協力で、それぞれ充実した活動になりました。具体的な内容については、会報や会誌をお読みいただき、活動を共有していただきたいと思います。また「安曇野の先人等に学ぶ会」「安曇野巡検」「安曇野の子どもを語る会」「展覧会」等の諸事業も多くの皆様に参加していただき、充実したものとなりました。

「安曇野の子どもを語る会」については、会の様子と成果を会報にまとめ、参加者及び会員に加え市内小中学校の全保護者にもお配りしました。教育会の活動を広く知っていただく一つの方策です。

十一月実施の「平成二十九年事業に向けた調査」では、ほとんどの項目について九割以上の方から「おおむね現状でよい」との回答が得られました。会員の皆様のご協力の成果であると感謝いたします。課題の残る項目については、ご意見を参考に改善の方向を探り、会員の皆様が主体的に参加しともに研修し学び合える場としての安曇野市教育会を目指していきたいと思えます。

第二回事業推進

連絡会行われる

新年に入った一月十六日、各校の代議員が集まり事業推進連絡会が開かれました。

まず、諸事業の反省が発表されました。実技講習会では昨年度に続き四百人を越える参加者がいたこと、適切な講師の選定や講座内容の工夫により充実した講習になったことなどが報告されました。会員へのアンケートを踏まえた常任委員会による事業に関する来年度の方向も示されました。今年度より始まった研修日については、他の会議と重複するなど時間的に参加しづらかったという意見がある一方で、授業力向上のために良い機会となったという意見もありました。

最後に教育会活性化のための意見交換がありました。その中で大島会長より、同好会活性化のために来年度も全市一斉に研修日を二日設定すること、平成三十年度が南安曇教育会百三十周年にあたり記念事業を企画していること、来年度の教育会総集会是豊科公民館で催す予定であることなど、来年度以降の取り組みについての話がありました。

同好会からの報告

【国語同好会】

明南小学校の伊藤和子校長先生を会長、明北小学校の青木泰治校長先生と堀金中学校の 教頭先生を副会長として、会員二十名で活動してきました。

六月には、豊科南小と明北小の公開授業に合わせて「話すこと聞くこと」の授業を参観させていただきました。相手の考えや思いを詳しく聞くインタビューの技術を追究する授業で、大変参考になりました。また、年三回の研修日を活かして、授業構想作りや自作の学習カードを持ち寄つての交流、パソコンを用いた読み聞かせなど、様々な取組に触れることができました。国語を専門とする仲間との交流を深め、各自の実践力を高める活動ができました。

【社会科同好会】

堀金小学校の勝家昌昭校長先生を会長をお願いして、会員三十五名で活動してきました。

本年度は、六月に穂高東中学校で「ガラッと転換！近世の安定の秘密」、十月に明北小学校で「水はどこから」の授業を提供していただきました。多くの先生方に参

加していただき、立場を超えて積極的に意見を交わしながら授業力向上につながりました。また、研修日には安曇野市の松枯れの現状について耕地林務課から学び、地域素材の大切さを再確認しました。さらに、学習会では貞享義民記念館 から、江戸時代の

庶民の暮らしについて貞享騒動の視点から教わりました。

来年度は、さらに多くの先生方に積極的な参加を促すとともに、小中連携を大切にしたいと考えています。

【算数・数学同好会】

会長に穂高西中学校の窪田博之校長先生をお願いし、会員二十四名で活動しました。

本年度は本同好会が参加している長野県算数数学教育研究会の第六十五回県大会を三郷小、三郷中学校を会場校として開催しました。研修日等に集まりながら、同好会員の先生方及び会場校の三郷小、三郷中の先生方、北安の先生方等多くの方々にご協力を頂き、開催することができました。県大会で公開した授業は、現在改訂作業が

行われている学習指導要領が目指す方向を意識して、多くの先生方で学び合いながら作りました。参観頂いた先生方だけでなく、安曇野の先生方の今後の授業改善にも生きる機会となりました。

惠校長先生に会長をお願いし、二十七名で活動してきました。教育会総集会の合唱発表では、久しぶりに仲間と一緒に合唱し、声を合わせる楽しさを実感することができました。また、夏と冬の「こども病院コンサート」では、音楽を通してあたたかな交流が生まれ、音楽のもっている力と共に、人と人とのつながりの素晴らしさも感じられた時間でした。

【理科同好会】

穂高東中学校の平沢重人校長先生を会長とし、会員三十七名で活動しました。

夏の天体観測会では、地域の中学生を交えて木星と四衛星、火星、土星、夏の星座の観察をしました。オブラート・牛乳膜・サラダ油

【美術同好会】

本年度から豊科南中学校の先生に会長をお願いし、会員八名で発足しました。

の上に唾液で湿らせたろ紙を置き、それぞれを通過するの確かめた三郷中の授業では、教材選定やグループ追究の場の設定により、唾液の働きを主体的に探究する姿を参観させていただきました。研修日にはセイコーエプソン豊科営業所を訪問して地域企業の現状を学んだり、会員の先生の教材（寒天の地層等）から研修を深めたりすることができました。

【音楽同好会】

今年度も豊科南小学校の筒井年

は夏と秋に同好会を開き、各校の教材紹介や、碌山美術館から学芸員をお招きした版画演習を行い、各校の教材開発に役立て

ました。次年度は小学校とのつながりを考え、図工授業にも役立つ同好会活動をしていきたいと思いをします。

【体育同好会】

豊科北中学校の佐藤厚彦校長先生を会長に、会員数三十四名で活動してきました。

今年度から公開授業を小・中学校両方で開催し、研究部会を十回程行い、研究を深めました。三郷小の先生、三郷中の先生に授業公開をしていただき、学び合うことができました。どちらの授業も、誰もが活躍できる教材の工夫がなされていました。

研究会・講演会では、大学教授の先生と、大学の先生に、教師の教授行為と教材化についてご指導いただき、どの子も楽しめる教材をつくることや教師の授業の進め方や声かけの仕方の大切さを学びました。

【技術・家庭科同好会】

豊科東小学校長の細萱稔先生を会長に、会員数十四名で活動してきました。

今年度は「研修日」と連携し、同好会員以外の先生方にも気楽に「スキルアップ研修会」に参加していただけるように内容を決め出

してみました。技術分野の研修として、モデルハウスの見学会を企画したところ、三十五名ものご参加をいただき大盛況でした。家庭分野は都合により同好会員限定で、NHK「きょうの料理」を監修された先生が経営するレストランにて食の研修会をしました。

ものづくりの好きな先生方は、来年度ぜひお気軽に本同好会にご入会くださるとありがたいです。

【道徳同好会】

三郷小学校の望月弘校長先生を会長に、会員十二名で活動してきました。

研修日研修では、特に講師を呼ぶことはせず、お互いに資料を読みあつて意見交換をしました。今年度は、二〇一五年明治図書『道徳教育』から、「新学習指導要領解説」の読み解き、問題解決的な道徳の学習、体験活動を生かす授業について参加者同士で学び合いました。普段はなかなか専門書を読み込む時間はありませんが、来たる道徳の教科化への備えとして有意義な時間となりました。

道徳教科化に向けてさらに充実した研修を重ねていきたいと思いをします。

【哲学同好会】

堀金中学校長大島春彦先生を会長に、会員数四十七名で活動を行いました。

六月の「安曇野の先人等に学ぶ会」では、先生の日記の読み合わせ、七月の「哲学研修講座」では、『パイドーン』の読み合わせを行いました。研修講座では、これまで四十二年にわたり先生に講師を引き受けていただきましたが、今回を最後に、講師を辞退されることになりました。

先生から、パイドーンに記述されている背景について丁寧に説明していただくとともに、私たち教師のあり方、生き方について多くのことを指導していただきました。

先生から教えていただいたことを胸に明日からの教育にあたりたいと感じる会になりました。

【教育相談同好会】

豊科北小学校遠藤正志校長先生を会長に、会員十名で活動を行いました。

本年度から三回の研修日が設けられ、どんなことが出来そうかわくわくしながら計画を立てていきました。一度お話を聞き取ってみたいかった先生方や医療福祉分野の情報紹介の講演会など、自分たちのニーズに沿って、計画的に負

担も少なく実施する事が出来ました。研修会では、個人の悩みや各校の課題や様子などを語り合うことも出来、有意義な時間とする事が出来ました。来年度は、この企画がしつかりと位置付き、参加者が無理なく、自主的に参加できるようになる事を期待しています。

【人物誌同好会】

本年度は明北小学校長青木泰治先生を会長に、会員六名で活動を行いました。

本年度も井口喜源治記念館主催の学習会に参加し、井口喜源治日記・内村鑑三講演会参加記の読み合わせをしています。また、本年度三回設けられた研修日では、松尾恒史井口喜源治記念館館長先生を講師に井口喜源治先生と研成義塾・先生に関わった人々についての研修を深めました。井口先生は徳高に研成義塾を開き、安曇野で人間教育を進められた先生です。研修日には毎回十五人ほどの先生方が集まり、徳高の地で先駆的な教育を試みた井口先生の業績を学ぶことができました。

【英語同好会】

三郷中学校の井口真校長先生を会長に二十二名の会員でスタートをしました。

今年度から行われた研修会では、

東西南北

「教師の誇り」

一月九日の朝、前日から降り続いた、重たい雪が二十センチほど積もっていました。学校にいた教務主任の先生から、雪かきのため都合のつく職員を招集したいとの話があり、連絡してもらいました。私も自宅周辺の雪かきを急いで終わらせ、学校に行きました。すでに十名ほどの先生方が来て雪かきをしてくれていて、ほとんど支障がない状態になっていました。三連休の最終日、自宅の雪かきもある中で、学校のために時間を割いて出てきてくれた多くの先生方に本当に感謝でした。先生方のこうした行動の裏にあるものは「教師の使命感」だと思えます。これは「損得」ではなく、「誇り」と繋がっているものでしょう。昨今、「同好会離れ」が危惧されています。以前は、同好会に入り、教科指導力を高めたいことは教師として当たり前のことでした。「明日の授業に役立つわけでも無いのに、なぜカントを学ぶのか」の間に「教師も下品になりたくないからです」と答えた信州の先輩教師がいました。「誇り」の持てる教師でありたいと思えます。

日々の授業を改善したいという思いで、研修を行いました。会員の先生方にワークシートを持ち寄っていただき、どのように日々の授業を行っているかということについて活発に意見交換がなされて、「明日から授業でやってみます」と笑顔で帰って行かれる先生方が印象的でした。

来年度も同好会員の先生方で、日々の授業実践を共有し合い、子どものために、よりよい授業作りをしていけたらと考えています。また、小学校でも、外国語活動がより一層活発になる中、小学校の先生も外国語活動の授業作りについてお話をしている場を設けられるようにしていきたいです。

【情報教育同好会】

穂高南小学校の丸山福一校長先生を会長に、十名で発足しました。今年度行った研修日では、エデュコムマネージャーク４の機能と操作方法について、実際のパソコンを操作しながら理解を深めてもらったり、タブレット端末を用意して機能と操作方法について、体験してもらったりしました。「覚えれば確実に仕事が速く、楽になると思う」「難しかったので、もっと時間がほしかった」等の感想や意見が寄せられました。近い将来、どの学校もタブレット

が導入されるでしょう。タブレットの効果的な活用法について実践事例を積み重ねていきたいです。

【学校保健同好会】

明科中学校古幡栄一校長先生を会長に、会員二十一名で活動を行ってきました。七月には校種別研修会を実施し

日常執務について情報交換を行いました。翌日からの執務に生かせる内容で学びの多い会となりました。夏休みには薬剤師先生を講師に中医学について学びました。保健指導の参考になるお話や自分自身について見返すことができるお話をお聞きし充実した時間となりました。十一月には仲間から学ぶ執務のアイデア研修会を実施し、子どもの本音を引き出す教育相談について学びました。参加者同士の交流も深まり、今後につながる活動となりました。

【特別支援教育同好会】

穂高北小学校の中村真市校長先生を会長に、二十四名で発足しました。

今年度は、初めて特別支援学級担任になった先生方、クラスに支援を必要としているお子さんがいるがどう支援してよいのか困っている先生方にもわかりやすい研修として、WISC-IVの基礎・基

本を学びました。実際、検査道具と検査用紙を見ながら検査をしてみたり、結果をもとに個別の指導計画をグループで作成してみたりと、とても参考になる研修になったと思います。二月には信州子どもこのころ診療研究会に参加し、その後懇親会を開きました。一人で悩まず、みんなで語って学べる良い機会となりました。来年度も誰もが知りたいと思う内容の研修にしていきたいと思っています。

【生活・総合研究会】

本年度は、穂高西小学校の小林栄子校長先生を会長に、十四名の会員でスタートしました。

天蚕・動物と子どもたちとのくらしや、地域の物産センターの販売活動の実践から、子どもの育ちを語り合う貴重な時間となりました。また、昨年度教育会長の藤松伸二郎先生を講師にお招きして、講演会も開催しました。長野県の百年前から続く総合学習の精神を教えていただき、これからの生活科・総合的な学習の時間の見方や考え方も教えていただきました。

今後もお互いの悩みを語り合え、気楽に集まれる同好会を目指していきたいと思っています。「大人の生活科」として楽しめる活動も考えていければと思います。

郷土の文化財 ⑭

「郷土文化財センター新パンフレットに向けて」

郷土文化財センター委員会では、収蔵品が変わった関係で新しいパンフレットを作成しています。目指すパンフレットは、①安曇野の偉人・先人の写真掲載 ②小中学校へ配布して児童生徒にも名前と顔が覚えられるようにする ③センターの存在を多くの方に知っていただくの三つです。

さて、安曇野の小中学校に勤務されている先生方へ。どのくらい偉人・先人の方々の顔と名前が一致するでしょうか。製作中のパンフレットから出題します。答えてみてくださいね。

現在、まだ肖像画を見つけれないという課題に取り組んでいます。肖像権も含めて許可されたものを探していますので、もし情報があればお願いいたします。

(井口 喜源治・務台 理作・松岡 弘)

(以上三名の方々)

本年度も「郷土の文化財」をお読みいただきありがとうございます。

誰か分かりますか？

彫刻家 荻原 碌山

「常念校長」 佐藤 嘉一

作家 臼井 吉見

初代教育会長 岡村 千馬太

学校設置の先駆け 藤森 桂谷

(郷土文化財センター委員会)



編集後記

本年度最終号の会報をお届けします。お忙しい中多くの先生方に

原稿をお寄せいただき、ありがとうございます。来年度も、会員同士の活動の様子を共有できる紙面作りを行いたいと思います。

